第5回　部活動の地域展開及び地域スポーツ・文化芸術活動の機会確保に向けた検討委員会　議事録

１　日時
令和8年（2026年）9月28日（月）13:30～15:15

２　会場
STV北2条ビル6階AB会議室（札幌市中央区北2条西2丁目）

３　出席者
⑴ 委員（15名）※五十音順・敬称略
伊藤 愛希子 委員　札幌市PTA協議会副会長
伊藤 裕子 委員　札幌文化団体協議会事務局長
井上 晃男 委員　一般財団法人札幌陸上競技協会副専務理事
大内 秀之 委員　札幌地区吹奏楽連盟事務局長
大高 雅子 委員　札幌市立柏中学校校長／札幌市中学校文化連盟会長
奥山 隆敏 委員　札幌地区バスケットボール協会U15部会副部会長
久保 和也 委員　市立札幌彩輝高等学校校長
小林 大介 委員　札幌市立八条中学校校長／札幌市中学校体育連盟会長
佐賀 主昌 委員　一般社団法人札幌地区サッカー協会専務理事
笹木 裕介 委員　一般財団法人札幌市スポーツ協会事務局長【副委員長】
清水 友陽 委員　公益財団法人北海道演劇財団常務理事
高橋 尚明 委員　札幌市PTA協議会理事
平本 健太 委員　北海道大学大学院経済学研究院教授【委員長】
益満 等之 委員　市立札幌豊明高等支援学校校長
三澤 眞由美 委員　札幌合唱連盟副理事長

⑵ 事務局（11名）
佐藤 圭一　教育委員会学校教育部長
吉田 憲史　教育委員会調整担当部長
伊達 峰史　教育委員会児童生徒担当部長
上野 千沙　教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課長
東 岳史　教育委員会児童生徒担当部児童生徒担当課長
西出 友成　教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課学びのプロジェクト担当係長
小林 宏一　教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課学びのプロジェクト担当係長
大橋 巧　教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課学びのプロジェクト担当係長
犬飼 やよい 市民文化局文化部事業調整担当課長
前田 靖裕　市民文化局文化部文化振興課振興係
秋川 直慶　スポーツ局スポーツ部スポーツ振興担当課調査担当係長

４ 議事録

【事務局：上野学びのプロジェクト担当課長】
定刻となりましたので、「第5回部活動の地域展開及び地域スポーツ・文化芸術活動の機会確保に向けた検討委員会」を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。
私は検討委員会の事務局を担当しております、札幌市教育委員会学びのプロジェクト担当課の上野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
会議に先立ちまして、会議の名称変更および委員の変更についてご説明いたします。先般、文部科学省にて部活動改革に関するガイドラインが策定されまして、その中で「部活動の地域移行」という名称が「地域展開」に改められました。これを受けまして、本検討委員会の名称も「部活動の地域展開及び地域スポーツ・文化芸術活動の機会確保に向けた検討委員会」に変更させていただいております。
続きまして、前回1月の会議以降、委員に変更がございましたのでご紹介いたします。札幌市PTA協議会におきまして八木委員に代わりまして伊藤委員。札幌合唱連盟におきまして宮路委員に代わって三澤委員。学校関係者について、中学校文化連盟におきまして木原委員に代わって柏中学校校長の大高委員。市立高校におきましては中井委員に代わり、来年4月に開校いたします市立札幌彩輝高校校長の久保委員。以上4名となります。

＜新任委員の挨拶＞

ありがとうございます。
なお、本日は発寒小学校長の高橋直之委員がご欠席となっております。それでは、以降の議事進行を平本委員長にお願いいたします。

【平本委員長】
皆様、本日もどうかよろしくお願いいたします。検討委員会も5回目を数え、その間色々と進展もございましたので、本日も活発なご議論をいただきたいと思います。
本日の議題は大きく前半と後半の2つのパートに分かれております。前半は資料1および2に基づき、これまでの振り返りおよび今年度上半期の取り組み結果について事務局よりご報告をいただき、質疑応答を行います。
後半は、資料3および4に基づき、今後の取り組み予定および現時点での札幌市における地域展開の検討の方向性などについて事務局より説明を受けた後、協議を進めてまいります。2時間ほどですが、どうぞよろしくお願いいたします。
それでは早速、振り返りからご説明をお願いいたします。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
（資料1・2に基づき説明）

【平本委員長】
ご説明ありがとうございました。これまで、札幌市においては、平日と休日を分けずに一体で地域展開を行うことができないかを検討してまいりましたが、今回のアンケート結果からは、この考え方がおおむね市民の皆様に受け入れられていることが確認できました。これまでの検討結果が受け入れられて良かったと感じております。それでは、ご質問や気になる点がございましたらご自由にご発言ください。

【笹木副委員長】
アンケート結果に関連して、平日休日の活動時間帯についてですが、回答いただいた指導者の方の活動可能な時間帯が遅い時間帯に偏っている点が少し懸念されます。現職でお仕事を持たれている方が平日16時からの指導に入るのは難しく、現状の部活動の活動時間である16時～18時頃と乖離が生じるため、今後の検討課題になるかと思います。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
おっしゃる通りでございます。平日は働いている方が多く、現行の部活動の活動時間とのズレが生じる可能性があります。平日を含めた地域展開を行う場合は、指導者の確保とともに生徒の移動・帰宅時間への影響、および夜間の学校開放施設との調整が重要な課題になってくると捉えております。

【高橋（尚）委員】
前回の会議の中で、少年団が小学生年代だけでなく中学生年代も引き続き受け入れて指導する形になれば、スムーズに地域展開が可能となるのではないかというお話がありました。今回のアンケート調査の中で、現在小学生を対象としている少年団が、中学校世代まで対象を拡大して指導していくような意向があるか、少年団にフォーカスした調査項目は含まれていたのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
アンケートの中で「少年団」にフォーカスした設問は設けておりませんが、資料11ページのうち、「中学生年代の活動に現在関わっていない」が、「現在の団体・チームを引き続き運営（地域クラブとして活動）したい」と回答された方の中に、少年団や大学・社会人サークルなどの運営者が含まれていると推測されます。

【高橋（尚）委員】
部活動の顧問を希望して教員になった方も一定数存在します。前回の会議の中で、そうした先生方を念頭に時短勤務などを導入し、地域クラブ活動に従事しやすい環境整備をというお話があったと思いますが、そのような検討は進んでいるでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
地域展開をどのように行うか、平日休日一体で実現できるのかという全体の方向性が決まっていく中で検討させていただくことになりますので、現状、まだ十分な検討ができていない状況でございます。

【平本委員長】
教員の働き方などのテクニカルな課題につきましては、今後の制度設計の中で詰めていく必要があるかと思います。

【佐賀委員】
アンケート結果について、これほど多くの方が地域展開に協力したい・活動したいと回答いただいたことに驚きました。また、自由意見で「教職員への配慮・指導者への適切な報酬」や「指導者の質の担保」が上位を占めている点は、これまで我々がこの検討委員会で議論してきた内容ともマッチしており、市民の皆様も同じ意識を持っていると感じました。
アンケート結果の中で気になったのは、資料14ページの「活動経費の支援」に約680名の協力意向があったことです。企業などのスポンサーなのか、個人からの寄付なのか、どのような支援のイメージなのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
回答者のお考えは様々かと思いますが、団体からのご支援、個人からのご寄付など色々なお考えの方がいらっしゃるのではないかと思います。こういった方々のお気持ちが形に繋がらないのは非常に心苦しいため、今後受け皿となる仕組みを検討・整理していきたいと考えております。

【平本委員長】
具体的な金額を表明された企業や団体の方はいらっしゃったのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
企業や団体からのご支援を想定されるような回答もあったかと思いますが、金額を具体で提示された方はいなかったと記憶しております。活動経費の支援以外の項目にもチェックを入れられている回答者が多いため、金額の多寡というよりは、お気持ちとして表明いただいた方が多い印象です。

【清水委員】
アンケートで「地域展開に関わってみたいが何をしたらいいか分からない」という回答が非常に多かった点についてですが、地域クラブ活動で指導すること自体はイメージできても、指導以外の事務的な業務、例えば報告書の作成、会計処理、会場調整などがどれくらい発生するのかが見えないことがハードルになっていると感じます。マニュアルのようなものがあり、作業や役割がクリアになると、「これならできる」と参加しやすくなるのではないでしょうか。

【平本委員長】
大変重要なご指摘です。どれくらいの負担があるのかが見えないと、地域クラブ活動へ一歩踏み出せません。また、報告書の作成といったお話がありましたが、紙ベースの時代ではありませんので、ITやDX、手法は何でもいいのですが、できるだけ簡単に効果が上がるやり方を考えることが重要だと思います。

【伊藤（裕）委員】
文化団体協議会として、市民アンケートの周知に協力いたしました。その際、ご覧になった民間の団体から「スポーツ分野の指導者は集まるが、茶道などの文化系種目で指導者探しに苦戦している」という相談・問い合わせがございました。企業等が委託を受けて指導者を確保するような取組を市として既に行われているのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
おそらく後ほどご説明いたしますモデル事業へのお問い合わせかと思います。10月からのモデル事業におきましては、民間企業に運営を委託し、企業側で必要な指導者の配置・確保をお願いしておりますので、その関係でお問い合わせが入ったものと思います。本番の地域展開後をどうしていくかにつきましては、事業手法の検討と併せて進めてまいりたいと考えております。

【伊藤（愛）委員】
子どもが小学生のときは少年団で野球をやり、中学校でも野球部に入りました。先ほどお話のあった「地域展開を少年団の延長のような形で継続する」というのは、送迎や見守り等も引き続き保護者が行うというイメージなのでしょうか。

【平本委員長】
以前の議論では、少年団が中学生年代の活動の受け皿となる場合、保護者のサポート体制も一定程度継続されるというイメージを共有しながら議論していたかと思います。

【伊藤（愛）委員】
そうなると、平日の活動時間が夜の遅い時間帯になった場合、仕事から帰った保護者がさらに夜間に子どもの送迎や活動の見守りを行うことになり、保護者の負担感が増すのではないかと懸念されます。

【佐賀委員】
関連して、サッカー少年団と民間クラブチームの実情についてお話しします。民間事業者が主体のクラブチームは、一定の費用（月謝等）を集める代わりに、指導者・運営側で送迎等も行っているところがあります。遠征等においても、指導者・運営側がマイクロバス等を運転して送迎しているケースもあります。一方、学校施設を拠点とした少年団は保護者会が組織され、指導部門と運営部門が分かれており、試合の際の送迎なども保護者が分担してきました。地域展開の手法によって保護者の負担感は大きく変わってくると思います。

【井上委員】
見守り活動や車出し、ならびに保護者の金銭的負担は、地域展開によって大きくなっていくのではないかという印象を持っています。

【高橋（尚）委員】
地域展開に向けて、これまでの部活動にかかっていたコストと、民間のクラブチームにかかるコストは違うという認識を持っておくべきです。中学校の部活の費用と同等のコスト感で地域展開を目指すのか、地域展開は不可避なのだから、ある程度のコストがかかっても仕方がないというスタンスで行くのかによって、進め方も変わってくると思います。

【平本委員長】
非常に大事なご指摘です。これまでも議論してまいりましたが、現状の部活動は先生方の無償の負担など、目に見えないシャドーコストによって成り立っている部分があります。地域展開に伴い、これを経済化・可視化した上で、どこまでを受益者負担とし、どこを公費負担とするか、また全体コストをいかに抑えていくかという議論をしなければ、事業の持続可能性は保てないと考えます。

【平本委員長】
その他にご発言がないようでしたら、前半の議論は以上とし、後半の議題について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
（資料3・4に基づき説明）

【平本委員長】
ご説明ありがとうございました。ただいまご説明いただきました札幌市の考え方や今後の展開につきまして、ご質問やご意見をお願いいたします。

【高橋（尚）委員】
今回のモデル事業での実績をもとに、神戸市などの他都市事例も踏まえて、将来的な受益者負担等のコスト試算を行っていくのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
今回のモデル事業で配置される指導者への報酬や、バックヤード業務（事務局機能）にかかる人件費等の実績データは、今後の参考資料として活用してまいります。

【平本委員長】
資料21ページに記載されている今回のモデル事業は4ヶ月間ですが、事業費はどの程度なのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
事業費は6,000万円弱です。この中には、事業の検証費用等も含まれておりますので、単純な掛け算は難しいですが、コア部分である指導者の人件費や事務局経費の実績として参考にいたします。

【平本委員長】
4ヶ月で6,000万円弱かかるという実態があり、指導員への報酬やバックヤードの仕事に報酬をお支払いするとそれだけのコストがかかるのが現実であるということを、我々も認識する必要があるかと思います。

【奥山委員】
資料21ページの「活動サポーター」についてお伺いします。どのような人物が従事されるのでしょうか。また、巡回・見守りを担うというイメージでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
活動サポーターは指導に当たるわけではないため、特段の資格要件は設けておりませんが、子どもと関わる業務ですので、選考のうえ、必要な研修を受けてから従事いただきます。属性は様々ですが、学校開放事業の管理指導員を務めている方や大学生などに従事いただく予定です。業務内容は、お見込みのとおり、学校内を巡回し、各所での活動を見守る役割を想定しております。

【奥山委員】
現在の学校部活動にはそうしたポジションの人が存在しないため、どのような動きをするのかイメージがわかないです。こういった立ち位置の方が、どのように活動に関与するのか、トラブルが起きた際にどのように介入・対処するのか、責任の所在や役割が曖昧なのが心配です。

【平本委員長】
事務局の説明では、生徒の安全管理を充実させるほかにも、指導者・生徒以外に第3の大人の目を置くことで、トラブルが起こりにくくする牽制機能も想定しているというお話でした。しかし、奥山委員のご指摘のとおり、トラブル遭遇時に活動サポーターがどう介入し対処すべきか整理が必要かと思います。

【奥山委員】
資料20ページにある活動の目的・理念の部分、生徒の志向・希望とのミスマッチを防ぐという視点でいえば、指導者との相性などから、これまでも指導体制の切り替わり時期には、とてもエネルギーがかかってきました。活動サポーターのような存在はありがたいと思う反面、活動に関わる大人が増えることで考え方の違いによる対立なども生じるのではないかと懸念するところです。そうした調整や責任の所在をどこが担うのかが非常に難しいと感じました。

【平本委員長】
大変大事なご指摘です。だからこそモデル事業で実際に運用してみて、活動サポーターがどう機能したか、トラブル遭遇時にどう介入できたかを検証した上で、サポーターの位置づけや要件、役割を整理していく必要があるかと思います。

【佐賀委員】
モデル事業を進めるということですが、地域クラブ活動となると学校の壁がなくなる、他都市で言うと拠点校方式になっていくなど、やりたいけれど自分の学校にはやりたい部活がなかったから入れなかったという生徒にとっては選択の幅が広がる側面があると思います。今回のモデル事業は学校部活動の単位で行うということで、そこまで踏み込むものではないと思いますが、生徒の志向・希望とのミスマッチを防ぐという点を意識して地域展開を考えるのであれば、このやりたいけどやれない生徒や色んな志向・希望を持つ生徒への対応として、どのような見通しを持っているのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
先日、中体連や中文連の専門委員長等と意見交換を行った際にも同様のご質問をいただきました。将来的には、やりたいことをやるために、自分の所属する学校ではない学校、例えば、南区の生徒が清田区のクラブに行くようなケースはあり得るのかなと思います。一方で、認定地域クラブ制度の試行実施においては、まだ部活動がある中で行いますので、そういった取り扱いを認めた場合、例えばある中学校のある部活に入っている生徒が、試行実施で生まれた別の地域クラブに転籍するとなった場合、既存の部活動への影響やハレーションが懸念されるところです。この点、まだ答えを持ち合わせておりませんが、各方面とご相談させていただきながら検討を進めていきたいと考えております。

【平本委員長】
とても悩ましいところですね。事務局にて検討し、色々と試行錯誤していただくことになると思います。

【小林委員】
関連して、中体連における認定地域クラブと大会出場ルールについてお話をさせていただきます。 市が認定地域クラブを一つでも指定した場合、2年間の経過措置以降は認定された地域クラブ以外のチームは中体連の大会に出場できなくなるという規定がございます。これまでは、地域展開の受け皿となっている地域クラブが中体連に出場することができましたが、認定地域クラブが入ってくると、大会出場の取り扱いが大きく変わることになります。そのため、今後進める認定地域クラブ制度の試行実施によって、既存のクラブが中体連大会に出場できなくなるなどの弊害や不利益が生じないよう、注意していただく必要があります。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
ご指摘ありがとうございます。今回の試行実施は、あくまで本市における認定地域クラブ制度の望ましい姿を検討するための限定運用、モデル事業のような位置づけであるため、中体連の仕組みに触れて、これまで中体連に出場できていたクラブが出場できなくなるといったことにはならないよう、制度設計や関係者への説明を行ってまいります。

【大高委員】
今回のモデル事業プロポーザルへ手を挙げた事業者はどの程度いらっしゃったのでしょうか。また、地域展開は教育委員会だけで進めるものではないかと思いますが、スポーツ局や市民文化局など、他部局との連携体制はどのようになっているのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
プロポーザルには計4者から提案があり、審査基準に基づきリーフラス株式会社に決定いたしました。他部局との連携について、本日も検討委員会にスポーツ局・市民文化局が同席しておりますが、モデル事業のプロポーザルの審査委員会においても、スポーツ局や市民文化局の職員が委員として参加しておりました。また、日常的に情報共有・連携を図りながら、検討を進めております。

【高橋（尚）委員】
モデル事業における評価項目や検証内容は具体的にどのようなものでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
平日を含めた地域展開の実現可能性があるのかを確認するのが大目的としております。具体的には、平日放課後の学校施設で、部活動に代わって学校外の団体による活動が行われるとなった場合、学校施設・備品の使用方法はどうなるのか、今回のモデル事業では保護者の皆様にご協力いただき、連絡ツールとしてアプリも導入する予定ですが、生徒・保護者との連絡調整はどのように行うのか、また、地域展開後、地域クラブと学校はどのような連携が求められるのかなどを検証いたします。

【高橋（尚）委員】
学校（教員）の負担軽減の変化がどれくらいあるのか明確にすべきですし、保護者だけでなく実際の生徒の意見もしっかりと聞いていただきたいと思います。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
おっしゃる通りです。生徒や保護者の皆様には、アンケートやヒアリングを通じて、ご意見をいただきたいと考えております。

【益満委員】
児童生徒の安全が第一であり、施設管理も責任を伴うものと考えております。このモデル事業では、学校施設を活用するとのことですが、学校施設の施錠や管理について、学校管理職が対応するようであれば、学校の負担が残り続けることとなりますが、どのような対応をお考えでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
モデル事業の種別として、①モデル校は既存の常設部活動すべてを対象としますので、平日放課後の活動は、すべて学校外の活動と位置付けられることになります。そこで、日々学校の管理職などが対応している学校施設の施錠や見回り業務を、本事業の受託者が担うことができないか、これは教員の負担軽減にもつながるお話ですので、そういった取組を試行できないかと考えております。しかしながら、仰るとおり責任を伴う業務部分ですので、学校側と慎重に調整したうえで、実施してまいりたいと考えております。

【益満委員】
発言したついでになりますが、将来的には高校や高等支援学校の子どもたちも含め、すべての子どもがやりたい活動を行えるようになることを期待いたします。

【久保委員】
モデル事業において、指導者の配置人数は各部（各クラブ）1名なのか、複数配置もあるのでしょうか。また、原則、顧問教員以外の指導者（外部人材）を配置するとのことですが、学校側はモデル事業の活動に全くタッチしないのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
指導者は原則各部（各クラブ）1名配置いたしますが、モデル事業の開始直後は、顧問教員と一緒に活動し、生徒が混乱することのないよう、配慮します。また、学校側の関与について、モデル事業終了後は部活動に戻りますし、地域展開後の地域クラブと学校との連携の在り方を模索することも本モデル事業の目的の一つですので、期間中の出来事は顧問や管理職へ随時共有し、連携を維持してまいります。

【伊藤（愛）委員】
モデル事業は、令和9年1月末で終了する予定とのことですが、2月以降はまた別の学校でモデル事業を実施する予定なのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
本事業は国費を活用して実施する事業であり、基本的に年度内は1月末をもって終了する予定でございます。

【伊藤（愛）委員】
例えば、今回対象となっている宮の森中学校の野球部などをベースとして、そのまま地域展開を進めていくということなのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
今回は、あくまでモデル事業ですので、モデル事業（4ヶ月間）終了後は、元の部活動に戻っていただきます。

【伊藤（裕）委員】
認定地域クラブ制度の議論は、この検討委員会がどこまで関わるのでしょうか。文化系は指導者の質の担保、これは技術面だけでなく人間性・適性の部分においてもですが、考えるべき課題が非常に多いと感じております。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
本検討委員会におきましてもご議論いただきたいと考えております。

【平本委員長】
生徒・保護者の安心感を担保するためにも、どのようなプロセスで指導者やクラブが認定されたのか、認定基準の「透明化・見える化」を図ることも必要ではないかと思います。

【清水委員】
演劇の分野には資格がなく、これがスタンダードというものがないまま日本に入ってきたため、それぞれの指導者の考え方でやっているのが実態です。多様性がある反面、地域展開に伴って指導者の質を担保するとなったときに、非常に難しい問題だなと思います。演劇のほかにも、いわゆるメジャーではない種目・活動になればなるほど難しい問題ではないかと。動かしてみないと分からないこともあるし、札幌独自の考えができて全国に発信できれば面白いのではないでしょうか。また、アンケートにもあるが、現場の声にどう耳を傾けていくのか、一緒に考えていかなければいけないと思いました。

【平本委員長】
現状の部活動でも指導者と生徒のミスマッチは起こり得ます。生徒が辞めたければ辞められる、AからBに自分の意思で動けるという自由や退避路を用意しないと不幸なことが起こるので、その仕組みを制度の中に組み込んでおくべきなのかなと思います。

【高橋（尚）委員】
部活動は教育的意義があるという議論がこれまでもあったかと思います。モデル事業において、外部指導者と学校はどのように情報共有・連携を行う計画なのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
活動の様子や生徒の状況については、随時情報を共有する、連携することとしております。

【高橋（尚）委員】
今回のモデル事業の中で、外部指導者と学校が情報共有する機会は設定されているのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
外部指導者と学校が情報共有する機会は設定されており、モデル事業としても学校との連携を求めております。

【高橋（尚）委員】
そうであれば、モデル事業の内容および今後の方針の中で「学校と外部指導者の連携の機会について」明記すべきだと思います。その記載があれば、他の委員の方々が懸念されている事項についても、ある程度の安心材料を提供できると考えます。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
ご指摘のとおり、地域展開にあたっては、教育的意義を継承する活動として、地域クラブは学校との連携が求められる旨を明記する方向で考えたいと思います。

【大高委員】
昨年、中文連の全国大会（演劇）を視察しましたが、舞台演劇だけでなく地域の伝統舞踊等の発表も含まれており、順位を決めて全道・全国大会へと上がっていく中体連とは形が違うのだなと感じました。
中体連・中文連の違いもありますが、種目ごとに見ても、活動に必要なヒト・モノ・コトなどの要素が異なるかと思いますので、地域展開に向けては、それらを一覧にしていく必要があるのではないかと思います。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
ご指摘のとおり、種目ごとの特性や課題に応じた対応が必要であるため、関係団体や中体連・中文連の専門委員会と連携して、検討を進めてまいります。地域クラブ活動にあたって、種目ごとにどのような要素が求められるのかを整理し、分かりやすく周知することで、アンケートにて地域クラブ活動の運営・指導を行いたいと回答いただいた方が、参加しやすくなるものと考えております。

【平本委員長】
本日のご議論では、事務局の検討する方向性について概ねご賛同いただけたかと思いますが、細部も含めて様々なご意見やご懸念を示していただいたかと思います。本日頂戴した多くのご意見を参考に、今年度下半期のモデル事業や試行実施を通じて実証を深めていただきたいと思います。

【久保委員】
今後の進め方として、モデル事業を実施・検証し、その結果を本検討委員会で議論して今後の方向性を詰めていくという理解でよろしいでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
お見込みの通りでございます。

【平本委員長】
部活動の地域展開について検討・議論する場は、この検討委員会以外にもあるのでしょうか。

【事務局：小林学びのプロジェクト担当係長】
ございません。この検討委員会にて、ご議論いただければと考えております。

【大内委員】
モデル事業について、今後報告が上がってくるかと思いますが、その際に学校部活動の現状をしっかりと把握していただきたいと思います。現場はここ1～2年でも大きく変わってきており、顧問教員はとても疲弊しています。

【平本委員長】
せっかくのご発言ですので、モデル事業の検証にあたり、注意すべき点などがあれば、教えていただけますでしょうか。

【大内委員】
部活動は、学校が運営主体ですので、何かトラブルが起こっても顧問以外の教職員を含めて、学校全体で対応することができますが、今回のモデル事業では、学校外の活動と位置づけるということですので、運営体制やサポート体制が大きく異なります。そのため、地域展開の姿を検証するモデル事業としては、部活動の実態やリアルな問題点を把握しておく必要があるかと思います。

【平本委員長】
大変重く、重要なご指摘です。綺麗事だけのフィードバックではモデル事業を行う意味がありません。現場の課題や問題点がしっかりと炙り出されるような検証となるよう、取り組んでいただければと思います。
本日のご議論では、事務局の検討する方向性について概ねご賛同いただけたかと思いますが、様々なご意見もいただいたところです。本日頂戴した多くのご意見を参考に、今年度下半期のモデル事業や試行実施を通じて実証を深めていただきたいと思います。最後に事務局より連絡事項をお願いいたします。

【事務局：上野学びのプロジェクト担当課長】
次回の検討委員会の開催時期につきましては、皆様のご予定を確認の上、改めてご連絡させていただきます。本日は活発なご議論をいただき、誠にありがとうございました。